



# 五木東小 第26号

学校便り  
文責  
生田 文明

## 「人権の花」大空へ

十三日に、「人権の花」運動イベント式を行いました。

まず、命の大切さや思いやり・優しい心を育ててくれた「人権の花」運動のこれまでの取組（土作り・種まき・苗の移植・水やり・雑草取り、種の収穫など）を振り返りました。五月の種まきが、昨日のことのように思い起こされ、月日の経つのがとても早く感じられました。

「人権の花」として育て、収穫したひまわりやあさがおなどの種は、子どもたちのメッセージとともに、約百五十個の風船に乗せ大空へと飛ばしました。高く高く舞い上がっていく風船を、子どもたちは見えなくなりまで見送っていました。

「人権の花」の種は、日本中へ世界へと旅立っていました。世界のどこかで、この種から芽が出て、花が咲き、「人権の花」運動が世界中に広がって欲しいと願います。

また、「人権の花」運動をとおして、私たち一人一人の心の中にも「人権の種」がまかれたように感じました。心の中にまかれた種に、思いやりや優しさの栄養をたくさん与え、みんなが笑顔となる幸せの花を咲かせていきたいのです。

次に、イベント式では、人権擁護委員のみな



## もちつき・門松づくり

さんによる人形劇「大きなかぶ」のミニ公演もありました。みんなで協力することの大切さを学ぶこともできました。児童だけでなく保護者・地域の皆様にも参加していただいた今回の「人権の花」イベント式。大空に高く舞い上がり、世界へ広がっていた「人権の花」のように、人権を大切にすることを参加した一人一人から周りの人々へ、そして五木村から世界中へ広げていきましょう。



十三日は、保護者・地域老人クラブの皆様のご協力のもと、正月を迎える準備として、もちつき・門松づくりも行いました。約二十kgの餅米を蒸籠で蒸しあげ、石臼と杵を用い、もちつきをしました。毎年恒例となっているもちつきですが、今回も最初は、なかなか腰が入らず、ぎこちない格好で杵を振りかざしていました。しかし、子どもたちは、だんだんコツをつかみ、餅つきもさまになり、みる間に餅米が餅につき上がっていました。

つきあげた餅は、地域老人クラブ（鶴亀・銀杏・白滝）の皆さんのご指導のもと、小さくちぎり、丸めていきました。素早く同じ大きさに小分けし、餅を丸め出すおばあちゃんの手さばき（技）に、子どもたちは見とれていました。

今回のもちつきは、日本の伝統的行事を学ぶだけでなく、地域の方々との交流を深める良い機会となりました。ご協力ありがとうございました。

また、立派な門松も正門に設置することができ、お正月を迎える準備が整いました。事前の竹・松・くま笹などの切り出し

ら当日の飾り付け・設置まで、保護者の皆様には大変お世話になりました。

## 道徳の授業



十三日は、道徳の授業も参観していただきました。子どもたちの道徳教育は、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体をとおして行っています。道徳の内容としては、各学年の発達段階にあわせて、「勤勉努力」「礼儀」「自然愛・動植物愛」「勤労」などの十六・二十二項目あり、これらを毎週の道徳の時間で満遍なく学習します。

今回、一年生は、「思いやり・親切」の内容で「ぼくのはなさいたけど」を題材として、二年生は、「生命尊重」の内容で「ゆきひょうのライナ」を題材として、三・四年生と五・六年生は、副読本「熊本の心」から「郷土愛」の内容で選り、「勝清と彦一とんちばなし」、「国宝、青井阿蘇神社」を題材として学習しました。

道徳教育を充実させるために、学校だけでなく各家庭でも、「思いやり・親切・生命尊重・郷土愛」の今回の授業を話題にしていきたいと思っています。そのことで、子どもたちの道徳的価値の自覚や実践力が高まります。

「今日の道徳はどんな学習だった」と、食卓の話題の一つにしていた

